

令和5年秋 大学院医学薬学府学位記伝達式 学府長式辞

医学薬学府そして看護学研究科の修了生の皆さん、学位取得、誠におめでとうございます。努力と研鑽を重ね、審査員の評価に耐えた立派な学位論文を纏められた皆さんの努力に心より敬意を表します。また皆さんを支えていただいたご家族、関係者の方々へ医学薬学府の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

皆さんの修了に際し、医学薬学府長として、一言お話をしたいと思います。

皆さんの中にもご覧になられている方がいらっしゃると思いますが、現在放送中のNHKの朝の連続ドラマ小説は、明日が最終回のようなのですが、「らんまん」というドラマが放映されております。このドラマで神木 隆之介さんが演じる主人公は、「日本の植物学の父」と言われた牧野 富太郎 博士がモデルになっているそうです。牧野博士は植物分類学の権威であり、1,500種類を超える植物の命名を行い、博士ゆかりの地にその名を冠した植物園などが存在しています。牧野博士は非常にご長命で、94歳でその生涯を閉じる直前まで研究を続けられていたそうです。そのような輝かしい業績と最期の時まで研究に対する情熱を失わなかった牧野博士ですが、実は小学校中退であり、理学博士の学位を当時の東京帝国大学から授与されたのは65歳の時でした。77歳で東京帝国大学の講師を退職するまでの間、学歴が他の帝国大学教員と比べれば劣っている牧野博士は不当な処遇を受けることもあったようです。しかし、牧野博士の研究業績は、世界から評価されており、東京帝国大学の教授であっても蔑ろにはできませんでした。当時の時代背景や教育のシステムは今日とは異なりますので、牧野博士のご経歴をそのまま現代に当てはめることはできませんが、牧野博士が生涯にわたって明確に示してきたように、博士や修士の学位が無ければ研究ができないというわけではありません。現代でもそうですが、学位は「何かができる」という免許ではありません。学位を持つということは「この人なら研究ができるだろう」という周囲からの期待を背負うことかと思えます。つまり、皆さんには、今日まで何をしてきたか、ということではなく、今日から何ができるのかということをお社会に向けて発信してほしいと思います。

最後に牧野博士が残した有名な言葉を紹介いたします。

「雑草という草は無い」という言葉です。私は、この言葉の根底には、すべての

植物を知りたいという牧野博士の純粋な知的好奇心が込められていると思っております。研究を遂行する力の源泉はこの知的好奇心です。本日、学位を取得した皆さんには、これからも旺盛な知的好奇心を持ち続け、社会に出ましたらそれぞれの立場で、さらなる飛躍を続けることを期待して、私の式辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

2023年9月28日

大学院医学薬学府長 小椋 康光

